

## 令和5年度第2回習志野市発達支援サポートネットワーク会議 議事記録

1. 開催日時 令和5年10月6日(金) 午後1時30分～3時00分

2. 開催場所 市庁舎3階 大会議室C

3. 出席者

【会長】 指導課 指導主事 柳沼 史義

【副会長】 こども部(こども保育課) 主幹 清水 郁乃

【委員】 健康支援課 主幹 堂前 幸子(代理出席)、障がい福祉課 係長 小森 俊、  
本大久保第二保育所 所長 竹口 典子、秋津保育所 主任 越川 佳子、  
津田沼幼稚園 園長 森谷 美枝子、大久保東幼稚園 教頭 中村 実千代、  
子育て支援課 副主査 福田 大志、こども部(児童育成課) 主幹 上野 智子、  
あじさい療育支援センター 主査 秋山 菜穂子、ひまわり発達相談センター 主査 續 竜太郎、  
学校教育部(教育総務課) 主幹 河村 幸枝、指導課 指導主事(係長) 伊坂 尚子、  
総合教育センター 指導主事(係長) 高橋 大悟

【事務局】 ひまわり発達相談センター

所長 内村 幸輔、主任指導員 橋詰 信一郎、主査補 田中 真由美、  
副主査 浅倉 真紀子、主任主事 大泉 晴香

4. 議題

(1) 令和5年度の障がい理解を深めていくための各課の取り組みについて

(市民協働こども発達支援推進協議会での委員の意見を踏まえて)

(2) その他

5. 会議資料

令和5年度第1回 市民協働こども発達支援推進協議会 議事録

6. 議事内容

(1) 令和5年度の障がい理解を深めていくための各課の取り組みについて

(市民協働こども発達支援推進協議会での委員の意見を踏まえて)

・令和5年度第1回市民協働こども発達支援推進協議会や発達支援研修公開講座の報告を事務局より行った。

・障害者差別解消法の理解促進のためのパンフレットを作成し、市内公立中学校の全生徒や障害福祉サービス事業所へ配布した。12月の障害者週間に合わせて、広報誌の掲載や、市役所でライトアップを予定している。発達障がいの理解促進のため、テレビモニターの放映を予定している。

・市民協働こども発達支援推進協議会の委員から出た意見を踏まえ、広報誌に掲載している「ひまわり職員ひとりごと」に解説を加えたものをホームページで公開し、市公式LINEやX(旧ツイッター)で周知し

た。今後は、公民館や保育所等へチラシの設置を考えている。

- ・発達支援研修公開講座で、子育てに取り入れられる講座があるといいなと思う。
- ・保護者の不安が子どもに伝わることもある。支援と思わず子や保護者へかかわることも大事だと思う。
- ・保護者は子どもに支援が必要だと思っても、他の家族に理解してもらえず、家族内で孤立してしまうことがある。障がいに対する差別がなくなるような講演や、具体的な手立てを示すことで、他の家族を説得できるのではないかなと思う。
- ・「落ち着かない子がいて」という話が職員よりあった。「落ち着かない」のは大人の見方である。その子の心地よい居場所を一緒に探して寄り添うことが必要だと思う。以前、クラスを脱走する子に悩んでいた時があった。保護者の願いは、友達と一緒に楽しく過ごすことだった。クラスの子の前で、その子を意識した言動をすることで、クラスの子全員が率先して迎えに行く姿があり印象的だった。
- ・力の加減ができず、園で他の子を何度もたたく子がいた。「だめだよ」という表現を控えて、「好きだから触りたかったんだよね」と思いを代弁したところ、叩かれていた子の保護者の見る目が少しずつ変わっていった。当事者にかかわる周りの人が、見方を少し変えると周囲の受け止め方が変わる。
- ・あじさい療育支援センターでは、園や事業所を併用する子が増えてきている。子どもにとってより良い刺激になる事例があった。少し気になる子どもについて、支援者が所属園と気軽に相談できる場があると良いなと思う。
- ・保護者に障がいへの理解が進んでいないと、子どもに適切な対応ができず、手を出してしてしまうことがある。子育て支援課では、関係課などを案内して、虐待防止へつなげている。
- ・健康支援課では、すべての子どもにかかわっている。育てづらさの相談から始まることが多いが、子どもが大きくなると発達の遅れで対応のしづらさが表面化することも多い。支援の手を離さずに、様子を伺いながら他機関と連携していきたいと考えている。
- ・放課後児童会では、支援の必要な子どもも他の子と仲良く遊ぶことができている。大きな音に過敏になる子どもがいても、先生は苦労していると思うが、子どもたち同士で解決する力が伸びてきている。放課後児童会へ安心して来ることができるよう、市役所として努力をしている。
- ・来年1月に年中向けの就学前説明会を行う予定である。抵抗のある保護者も多いと思うので、匿名での申し込みとする。来年4月以降の年長向けの説明会は、所属園を通しての申し込みを考えている。
- ・不登校の背景には、支援の必要な子どもが学級に馴染めない場合もある。保護者にもサポートが必要だと考えている。いじめには、特性の理解不足が影響することがある。保護者も中学校くらいになると子育てが苦しくなり、学校に行けない等の要因をさまざまなところに求めたいと思っていると思う。
- ・ひまわり発達相談センターの保護者アンケートで、「当初相談をした関係課と連携が取られていると思っていたが、取られていなくて驚いた」との意見があった。今後とも連携をお願いしたい。

## (2)その他

- ・令和5年度第1回市民協働こども発達支援推進協議会で出たライフサポートファイルの意見を事務局より報告した。
- ・ライフサポートファイルを主に使用するのは障害福祉サービスを利用する層である。そのため、習志野市地域共生協議会の児童部会と連携をとり、「ライフサポートファイル作ろう会」を来年2月に開催予定である。
- ・乳幼児個別支援計画の記入が難しそうな場合は、一緒に書くなどの支援をしている。今後ライフサポートファイルにおいても、書き方の援助をできるように声をかけようと思う。
- ・学校の個別面談で、ライフサポートファイルの有無を確認してもらっている。就学するとライフサポートファイルの内容が薄くなるが、卒業後は濃くなるため「障害年金の申請等で活用できる」などのメリットも話してもらおうように先生へ伝えている。繰り返し伝えていきながら進めていく。